

大学院専門委員会

1. 主な年度計画の実施状況

(1) 計画番号 5:「平成 29 年度に改組した人文社会科学研究科の新カリキュラムによる修士課程専門教育を着実に実施し、修了生 DP 達成度を点検・評価する」

- ・人文社会科学研究科の DP に基づき、滞りなく着実にカリキュラムを実施した。また院生懇談会は年度当初に 1 回、そして平成 31 年 1 月に地域政策コースの院生を対象に開催した。

(2) 計画番号 16:「社会人院生と開設趣旨およびカリキュラムについて懇談会を実施し、教育効果と課題を分析する」

- ・社会人院生と開設趣旨およびカリキュラムについて懇談会を実施した。「地域政策研究（社会人）コース」には、大学や学部と連携協定を結ぶ自治体と協働で、地元茨城をフィールドに教育研究を展開している。平成 30 年度は 4 名の修士 2 年の修了者を出した。修了生は、鹿嶋市・石岡市・茨城町職員のように、企画部門に所属が異動になり、さらに鹿嶋市・石岡市職員のように修論での研究を職場で継続するなど、本研究科での研究成果を活かし、地域における中核的な人材としての更なる活躍が期待されている。

2. 日常的業務

(1) 入試説明会を 6 月と 11 月に 2 回実施した。6 月は両専攻 21 名（文化 12 名、社会 9 名）、11 月は両専攻で 22 名（文化 12 名、社会 10 名）の参加を得た。

(2) 10 月に秋入試、2 月に春入試を実施した。また、3 月に追加募集を実施した。その結果、文化科学専攻は募集 13 名に対して 27 名が志願し、25 名が受験した。合格 13 名で入学 11 名。社会科学専攻は募集 12 名に対して 28 名が志願し、24 名が受験した。合格 12 名で入学 12 名。

(3) 院生懇談会を 1 回実施した。また学生へのアンケートも行った。

備品の購入など、院生からの要望を把握し、専門委員会で検討して、対応可能なもの（環境整備など）について対応した。他方で、院生室の使用や安全対策については、こちらから改善のための指導を行った。

(4) コース・専攻・研究科で FD を実施した。

FD テーマ：【専門科目の教育体系における現状の認識と今後の課題について】

- ・地域での中核的あるいは高度な技能を有する専門職業人の養成と輩出を目指して、改組が進められている。幅広い視野にたつて諸課題の解明に取り組むためには、研究能力とともに、高い実践力や専門性も必要である。そのような人材を育成するには、学問分野やトピックに応じて体系化され、顔の見える人数の教員集団が責任をもって運営し、学生に向き合う教育体系が必要となる。平成 30 年度の大学院 FD では、必要に応じて分

野あるいはコースでの教育の振り返りを行い、改組を見据えながら、メジャー（地域政策研究はコース）での現状の認識（例えば、できること、できないことなど）をふまえつつ、専門科目の教育体系の課題等について意見の交換を行った。

平成 30 年度大学院専門委員会委員長：野口康彦